



## 空き家活用の手前にあるリアル

「空き家活用は、まち協の大きな力でもあるんですよ。今もどんどん街は衰退してしまって、実際、幾つかの事業もやってはきたんですけど……なかなか続かないですよね。佳子さんは、こういうのだったら気が楽だなあと、家を活用して欲しいかもというのはあるんでしょうか?」

「そうですね……。(しばらく、沈黙)

「あって、私の中ではまだとにかく仮

壇があるから、それをどうにかしな

いと使ってもらうも使つてもいいな

いよねっていう。まず片付けなきやつ

いう方が先つていいか:だから、何

かで使つてもらえるならないんですよ。

別にああしてほしいとかは全然何も

なくって感じですかねえ……」

私がことで恐縮だが、妻の実家の片

付けを手伝ったときのことを思い出し

た。「まずは片付けかな

くちや!」言葉に

すればそれだけのこと

と。しかし、「それだけのこと」がどれ

ほど大変だったか……。

佳子さんのお話を聞いて

いると、もっとその手前の話が、こん

なりアルが膨大にあるんだといふ

なり前のこと気にかかる。そして

それはもちろん仕事をする私た

ちにとっても、大切にすべき事柄のよ

うに感じられた。

その後も高橋ご夫妻とは、様々な

改定されたとい

う空き家に関する法律(※2023年12月施行の「空き家等対策の推進に関する特別措置法」)では、その定義に該当すると固定資産税が最大6倍になるんだとか。そうなると、そうそう「空き家」にはできないのが心情。週1回の掃除や仮壇のお世話をあって、ガスは止めても水道と電気はそのまま無いのである。また、懐かしい写真なんかを見つけると、思い出に浸つてしまつて、片付けがなかなか進まないとか。それなら懐かしの写真展でも聞いて街のみんなに見てもらおう。みんなで楽しみながらシェアするのがいいよね……とか、そんな取り止めもないアイデア、あるいは愚痴やらが入り混じる雑談の時間が流れた。その最後に、佳子さんと交わした会話も印象的だった。

話題で盛り上がった。近年、

佳子さんが、街に新たな価値をもたらすことは間違いないのかもしれない。しかし、

佳子さんのお話を聞いて

いると、もっとその手前の話が、こん

なりアルが膨大にあるんだといふ

なり前のこと気にかかる。そして

それはもちろん仕事をする私た

ちにとっても、大切にすべき事柄のよ

うに感じられた。

改定されたとい

う空き家に関する法律(※2023年12月施行の「空き家等対策の推進に関する特別措置法」)では、その定義に該当すると固定資産税が最大6倍になるんだとか。そうなると、そう

う「空き家」にはできないのが心情。

週1回の掃除や仮壇のお世話をあって、ガスは止めても水道と電気はそ

のまま無いのである。また、懐

かしい写真なんかを見つけると、思

い出に浸つてしまつて、片付けがな

か進まないとか。それなら懐かしの

写真展でも聞いて街のみんなに見ても

らおう。みんなで楽しみながらシェア

するのがいいよね……とか、そんな取り

止めもないアイデア、あるいは愚痴や

話も印象的だった。

## 決戦は金曜日?

翌週の木曜日の夕方、大西さんからLINEが入る。街の人とのヒアリングのアポが取れたので、急いで申しきりしたのをよく覚えてますよ。その後、まだ登久屋さんのお父さんが、交差点の角地に立つ電信柱の頃からすでに商店街の衰退は課題でした。が、それからもう17年、月日が経つのは本当に早いですね

宇佐美さんは、旧店舗2軒のうちのひとつ、建物に今もお住まい、別棟の空き店舗オーナーでもある。その空き店舗は、商店街の倉庫としても使われているが、一時期は宇佐美さん

から、ちょうど1週間後。急だったこ

ともあり、食事は挙まないで通常の

18時半過ぎながら港まちに立ち寄寄せな

くもない。高橋ご夫妻のインタビュー

から、ちょうど1週間後。急だったこ

ともあり、食事は挙まないで通常の

18時半過ぎながら港まちに立ち寄せな

くもない。高橋ご夫妻のインタビュー

から、ちょうど1週間後。急だったこ

ともあり、食事は挙まないで通常の

18時半過ぎながら港まちに立ち寄せな

くもない。高橋ご夫妻のインタビュー

から、ちょうど1週間後。急だったこ

ともあり、食事は挙まないで通常の

18時半過ぎながら港まちに立ち寄せな

くもない。高橋ご夫妻のインタビュー

から、ちょうど1週間後。急だったこ



1  
DAY

# 「溝口さん」のある1日。

取材・文・写真：  
西村隆登(港まちづくり協議会)

## 6月21日夏至 みなとまちこども食堂の日

溝口  
由美恵さん  
59

4人の子どもを育てながら、PTA活動を通じて学校行事や、保護者、子どもの活動を支えてきた。その延長で、民生委員・児童委員としても地域に関わり、気づけば20年近く。地域の輪の中心的な存在として、自然と人をつなぎつつ、その関係性を生かしてこども食堂の運営にも尽力中。



9:30 今日のメニュー

とりのからあげ、じゃがバター炒め、ポテトサラダ、白ごはん、大葉のせそうめん、バイナップルシロップ漬け。健康第一!



14:30 ピッカピカのキッチン

次に利用する人のために、キッチン使用後は来た時よりキレイに。気持ちの良い空間から生まれる料理は美味しいにぎまっています!

## 溝口さんの日常



※みなとまちこども食堂……西築地コミュニティセンター（いわゆる公民館）でみなとまちこども食堂ボランティアグループが運営することも食堂。こどもが一人でも安心して来られる、食事ができる場所として毎月第1・第3土曜日の10時～12時に開催。中学生以下無料、高校生以上は200円。

【港町ヨーコ】  
港まちボットラップビルの受付を  
担当する、架空の港まちづくり協  
議会スタッフ、ちょっとねこ背。



マンガ：宇佐江みつこ…名古屋市在住の漫画家・イラストレーター。岐阜県美術館のSNSで4コマ漫画『ミュージアムの女』を連載中。

## 港まちという舞台で、少しづつ交差していく

「観光地みたいって、最初は思ったんです」と話すのは、港まちに暮らす山口さん。旅館や喫茶店が並ぶ町並みに、引っ越ししてきた当初は「旅行しているみたい」と感じたそう。けれど今では町内会にも参加し、ごく自然にまちとつながる暮らしを送っている。そんな山口さんが使っているスタジオは、もともと喫茶店だった建物。普段から扉を開けていると、近所の人が様子を見に訪れる、声をかけてくれるという。「だんだん“人が集まる場所”にもなるかもしれないと思って」。その思いに応えるように、建築家の河部さんがスタジオの改修を手がけた。展示やワークショップにも対応できるよう、机や椅子を動かしてレイアウトを変えられる設計に。「育ったのは町工場の多い別の港エリアだけど、ここは歴史があって、人との距離も近い。文化が根付いていて、よそ者でも入りやすい懐の深さがあります」と河部さんは話す。

一方の間宮さんは、この日のために、先日家族で訪れた長野県で初おやきを我慢したそう。「誘惑に負けずに今日のために食べなかった!」とどんな具材が合うか真剣に考えるなど、真面目な一面を見てくれた。そんな彼が港まちに関わるようになったのは、アッセンブリッジ・ナゴヤのプロジェクトとして運営されている港まちの社交場「NUCO」でYouTube撮影をしたのがきっかけ。運営をしていた山口さんと出会い、「面白そうな人がいっぱいいて、気づいたら好きになってました」と語る。具材選びのバランス感覚から始まり、気遣い上手な3人が集まつた第3回のおやきは、具材もやさしさも包まれていた。

Let's Enjoy!



試食とまとめ!

エビチリソースに春菊の香りが重なり、「パクチーっぽくてタイ料理みたい!」と大盛り上がり。納豆との意外な相性にも驚きつつ、山口さん考案の塩昆布を練り込んだ生地が絶品だと話が弾みました。

# ハッピーハッピングおやき

## みんなで持ち寄ったおやきの具材

ラザニア…「食べたいから入れた!」という自由な発想で選ばれた、挑戦的な洋風具材。

畠の野菜…アッセンブリッジ・ナゴヤのプロジェクトでアーティストの活動の場として活用されている「旧・名古屋税関港寮」の畠で育った小松菜や春菊、ローズマリー。



納豆…ねばりと食感が面白い! 試してみたくなる、冒険心で選ばれた具材。

エビチリ…間宮さんがどうしても入れたくて、スーパーを3軒回って見つけたこだわりの逸品。

## 港まちに 住む人

山口麻加さん

版画家。港まちにスタジオを構え、「アッセンブリッジ・ナゴヤ」のスタッフとしても活動中。町内会にも参加し、地域の一員としても大活躍。まちと関わる輪を広げている。

## 来た人 港まちに

間宮将太さん

映像制作を中心に、制作会社と桐原業を営む。父の工場が港区にあり、幼少期に港まちへ訪れた思い出。現在は趣味で気になる人を取材・編集し、YouTubeに投稿している。

河部圭佑さん

建築設計を専門とし、山口さんとは金山のアートプロジェクトで出会い。以降、港まちにも縁が生まれ、山口さんのスタジオの改修計画にも関わる。大学の非常勤講師として勤務している。



1 無難な具材集合  
「みんなで食べる…」と配慮しきりで、気づけば冒険なしの美味しいラインナップに。



2 まちの人が登場  
「パーティしてるの?」とご近所さん。アトリエの改修前から見守ってくれていた、まちの日常風景。



3 包丁を借りに  
包丁を忘れてスタジオの大家さんに借りに行くと、気前よく3本も貸してくれる優しいやりとりが。



4 顔つきおやき誕生  
ちょうど真ん中が焦げて鼻みたいに! 可愛くて、食べるのが惜しいと盛り上がりを見せていた。

完成した  
おやき



## 港まちの クラブ名鑑

取材・文・写真：東 唯(港まちづくり協議会)

港まちで活動するサークルを訪ねます。今回は、港まちボットラップビルのレンタルルースペースを利用されている民踊教室へ。

クラブ名 あすなろ会

結成 1990年8月

活動場所 西築地学区

現在の部員 15名

結成のきっかけ 「こんなに踊り好きがいる町なのに、盆踊りだけじゃない」女性会会長田島さんが各町内から選抜メンバーを募ったのが始まりです。

活動コンセプト 港区から名古屋市内のどこへでも。若手育成も担いつつ、地域振興を協力するべく、日々お稽古に励んでおります。

